令和４年度　第１回岐阜県図書館協議会議事要旨

１　開催日時　令和４年７月２７日（水）　午後２時００分～午後３時４０分

２　開催場所　岐阜市宇佐４丁目２－１

　　岐阜県図書館　２階　特別会議室

３　会議日程

・　館長挨拶

・　委員長選出、委員長挨拶

・　副委員長選出

・　議　題

〇協議事項

令和３年度「図書館評価」について

〇報告事項

令和４年度に実施する工事について

デジタル化等を活用した非来館型サービスについて

４　委員の現在数　　１０名

５　出席委員の人数及び氏名　　１０名

委 員 長	鈴木　彰
副委員長	伊東　直登
委　　員	天野　知子
委　　員	太田　朋代
委　　員	大成　朋広
委　　員	大藪 千穂
委　　員	髙木　誠
委　　員	遠山　健二
委　　員	中野　馨子
委　　員	林　　佳苗

事務局出席者

北川館長、酒向総務課長、西垣主幹、江崎企画課長、和田サービス課長、平下管理調整係長、石井企画振興係長、服部資料係長、加藤図書利用係長、青谷調査相談係長、綛井郷土・地図情報係長、渡辺主事

県教育委員会出席者

学校支援課　　上明代指導主事

県民文化局出席者

文化伝承課　　寺井主査

6　議事の経過及び結果

［午後２時 00 分、主幹の司会進行により、協議会の開会に先立ち、館長から挨拶を行った］

［北川館長挨拶要旨］

委員の皆様には、ご多用の中、今年度第１回目の「図書館協議会」にお集まりいただき、感謝申し上げる。

皆様には、岐阜県図書館協議会委員を、この７月から２年間の任期でお願いしている。今回、１０名の委員のうち新任の方が６名、再任の方が４名となっており、後程自己紹介をお願いしたい。

最近の県図書館の状況について、２点報告させていただく。

先ず、直近の利用者状況について、来館者は一日平均で約１，２００人、貸出冊数が約１，０００冊となっている。コロナ前と比べると、来館者が約６割、貸出冊数が約８割に減少している。一方で、電子書籍のアクセス件数を見ると、一日平均で約７０件と、コロナ前と比べ倍増している。当館としては、コロナ禍において「非来館型のサービス」の拡充を考えており、本日の議題で、「デジタル化等を活用した非来館型サービスについて」を報告するので、ご意見をいただけると幸いである。

続いて、お手元の冊子「ぎふを歩く。文学を歩く。～ぎふ文歩」をご覧いただきたい。岐阜県が生んだ文豪や現代作家の紹介、そして彼らのゆかりの場所等を地図で紹介している。冊子とともに、文豪のゆかりの場所を巡っていただきたく、作成した。

１枚めくっていただくと、４ページに、島崎藤村が登場する。今年は島崎藤村生誕１５０年の節目の年に当たることから、１０月には島崎藤村のお孫さん等をお招きし、トークイベントの開催を予定している。

また、１１ページには藤橋村出身の岸武雄が登場する。現在、岸武雄生誕１１０年に関連して、1 階「企画展示室」にて特集展示を開催している。この機会にぜひご覧いただきたい。

１８、１９ページには、昨年、「黒牢城」で直木賞を受賞した米澤穂信が特集されている。先日、メディアコスモスで米澤さんの講演会が開催され、作家デビュー後に高山市から岐阜市に移り、「岐阜県図書館で本を借り、読みまくっていた。また、書店でも多くの本を購入した。」とお話されていた。

２８ページ以降は、ゆかりの作家一覧を掲載している。多くの方にご活用いただければと考える。

以上、２点を報告したが、本日は委員の皆様方から忌憚のないご意見をいただければ幸いである。本日はよろしくお願い申し上げる。

［委員全員が名簿順に自己紹介を行う］

（事務局）
［事務局から本日の出席者について、委員１０名中、１０名が出席しており、定足数に達している旨を報告した］

（事務局）
［事務局から、当協議会には委員長及び副委員長各１名を置き、委員長が当協議会の議長になることを説明し、委員長が選出されるまで司会が進行を務めた。その後、委員の互選により鈴木委員が委員長に選出された］

（委員長就任挨拶）
　皆様のご承認をいただいたので、議長をさせていただく。各委員、様々な立場から意見をいただければと考える。

［委員の互選により、伊東委員が副委員長に選出された］

［委員長は、議題の協議事項である「令和３年度『図書館評価』について」　事務局の説明を求めた］

（事務局）
［事務局（江崎企画課長）から、協議事項「令和３年度『図書館評価』について」　説明］

（委員長）
［委員長は、協議事項「令和３年度『図書館評価』について」　委員の発言を求めた］

（髙木委員）
　図書館評価１５ページ目にある「地区別意見交換会」の場において、県図書館に対しどのような要望が出るか。

（石井企画振興係長）
　コロナ禍での図書館運営方法の情報共有や、研修会を引き続きオンラインで開催してほしいといった声が寄せられている。

（遠山委員）
　電子書籍サービスについて、小中学校でもその活用が広がっている。図書館評価１０ページ目にある内容に関連して、岐阜県図書館として誰を対象とした電子書籍サービスを重点的に行っていくのか。また、電子書籍の内容は子ども向けではなく、一般向けの本が多くを

占めているが、今後の見通しについて教えていただきたい。

（服部資料係長）
　遠隔地在住の利用者、ビジネス支援を目的に当初導入した。内容は製造業や地場産業、子育て支援等、大人向けの内容が多い。現在、子ども・中高生向けのコンテンツを増やしてもらうよう紀伊國屋には要望を出しており、コンテンツに含まれた際には積極的に収集したいと考える。

（遠山委員）
　県立の図書館としては大人向けにサービスを展開し、子ども向けサービスは各市町村にお願いする形なのかもしれない。しかし、各市町村の予算状況によっては、機会に差が生じる可能性もあることから、できるだけ市町村の状況を把握いただき、サービスの対象を拡大していく体制を整えてほしい。

（天野委員）
　コロナ禍で電子書籍のありがたさも感じるが、子どもたちが紙の書籍の大切さを置き去りにしたまま、電子書籍へと進んでいってしまう不安もある。例えば、お話し会であれば、絵を見て育っていく姿に、電子では伝わらないものがあると感じる。with コロナで育っていく子どもたちに、紙の書籍の大切さを伝えていただきたい。

（伊東委員）
　長野県では、8 月から県立図書館が主体となり、県内の公共図書館で電子書籍が利用できるようになる。これを例に全国に広がる可能性があるため、紹介しておく。

（中野委員）
　電子書籍の流れには賛成。図書館に行くのが面倒な人にとっては、電子書籍をきっかけに利用が広がっていく可能性もあり、まずはサービスの充実が必要と考える。
また、研究にて古典資料等を利用する際、現物を探しに遠出をしなくても、データ化されていればオンラインで入手できるため、今後もサービスが広がって欲しい。

（委員長）
［委員長は、議題の報告事項である「令和 4 年度に実施する工事について」　事務局の説明を求めた。］

（事務局）
［事務局（酒向総務課長）から、報告事項「令和 4 年度に実施する工事について」　説明］

（委員長）
［委員長は、報告事項「令和４年度に実施する工事について」に関して、委員の発言を求めた。］

（伊東委員）
　書庫について、具体的に収蔵能力は何冊から何冊まで上がるのか。また、床は書架増設に耐えられる強度があるか。

（酒向総務課長）
　現在の収蔵能力は 121 万冊、工事により 144 万冊となり、その先 20 年はスペースが確保される。床の強度は問題ない。

（委員長）
［委員長は、報告事項「デジタル化等を活用した非来館型サービスについて」に関して、事務局の説明を求めた。］

（事務局）
［事務局（江崎企画課長）から、報告事項「デジタル化等を活用した非来館型サービスについて」　説明］

（大成委員）
　２－④デジタルアーカイブシステムの「県域全体」とは具体的にどの範囲を示すか。

（和田サービス課長）
　岐阜県全域を示す。県図書館だけでなく、県有施設等と連携し、総合データベースの構築を進めていきたいと考えているが、まだ具体化していない。

（林委員）
　１－（２）―④遠隔地利用者返却サービスについて、現在各務原市も参加し、多くの方が利用している。今後県内市町図書館で返却処理ができる機能を構築するとあるが、市町図書館でシステム等準備が必要なことはあるか。

（石井企画振興係長）
　現在相互貸借で運用している Ufinity のシステムを活用予定であり、市町図書館で準備が必要な事項は特にない。

（髙木委員）
　１－（１）―①電子書籍について、令和８年までに２万点を目指すとあるが、コンテンツの内容は。KinoDen 自体に子ども向けコンテンツがなく、一から要望を出しているのか、それとも引き続き大人向けコンテンツを収集するのか。

（服部資料係長）
　現時点で KinoDen のコンテンツは大人向けのみであり、数年前から、子ども向けのコンテンツを作ってもらうよう要望している。あらゆる分野の書籍が網羅的に収集できる点数がおおよそ２万点と考え、大人向けの本をバランスよく収集していく予定。

（委員長）
［委員長は、図書館運営全般について委員の発言を求めた］

（太田委員）
　本日は見学から参加し、図書館の普段見られないところが見られて良かった。個人的には子どもには紙の本を読んでほしいが、電子書籍も読書のきっかけにはなる。両方の良いところを活かして、図書館がより盛り上がるとよいと感じる。また、小さい子が行ってみたいと思うような図書館づくりを求める。

（大藪委員）
　若い人は電子に慣れているため、紙の本と電子書籍を使い分けていくと思う。先日国立大学図書館長の集まりがあり、DX が進む中で図書館の在り方も変わってきていると感じた。場としての図書館とともに、データの蓄積の機能が求められる中で、求められた情報を提供する図書館職員のコンシェルジュ的な役割が大きくなる。ただ、電子書籍やデジタル化など、電気が切れるとすべてが終わる危うさもある。

（天野委員）
　図書館評価１１ページ目の「２５さいをすぎた絵本」の改訂とあるが、出版される本はどんどん変わっていくのに「２５さい」という線引きはそのままでよいのか。

（和田サービス課長）
　「２５さい」というのは出版されてから四半世紀を経ている絵本、親子で読み継がれている絵本を指し、そうした絵本をピックアップして紹介していくものである。２５年過ぎた絵本を闇雲に追加しないよう努めている。

（遠山委員）
　先ほど電子書籍について、学校現場として学びの機会を保障するツールとしての活用について述べたが、教師やボランティアによる読み聞かせといった取り組みももちろん大切と考える。
　学校では安易な「コピペ」が問題となっている。情報リテラシーについては学校教育だけでは追い付かない。書籍の持つクレジットの価値を図書館からも発信してほしい。

（大藪委員）
　大学では学生のレポートのコピペを判別するソフトを利用することもある。著作権の講座などで著作物の扱い方を発信してもらえると一般の方だけでなく、先生方にとっても勉強になってよい。

（伊東委員）
　県外から参加した者として、岐阜県図書館は「さすが」だと感じた。全国をひっぱってきた図書館の一つとして、特に直接サービスだけでなく、全県下にもサービスが行き届いていると感じた。
　提案だが、図書館評価に記載されている講座や連携事業はあくまで手段であって、目的ではない。各事業について、県民への効果を意識して取り組み、実施後に評価をしていくことも検討いただきたい。

（委員長）
　今後も学校図書館と公共図書館の連携を進めてほしい。学校図書館への支援は、人員が不足している学校図書館や、また会計年度任用職員・司書資格のない職員が担当するなど困難な状態にある学校も少なくないため、有り難い。また、令和６年度全国高等学校総合文化祭開催にもつなげていけるとよい。

（委員長）
［委員長は、図書館運営全般についての質疑意見を打ち切った。委員長は、各委員の意見を参考に事業を進めるよう事務局に依頼し、今後のスケジュールについて事務局に説明を求めた］

（事務局）
［今後のスケジュールについて説明。次回の協議会の開催は、令和５年２月の開催を予定］

（委員長）
［委員長は学校支援課上明代指導主事に発言を求めた］

（上明代指導主事）
　電子書籍の活用は、新しい学習指導要領にもある「主体的・対話的な学び」に関わる。県立高等学校では全生徒にタブレットが配布され、中身の充実の面で図書館の役割が重要となる。また、電子書籍にはない、紙の本の良さを図書館から伝えていただきたい。

［本日の協議事項の審議がすべて終了したことを確認し、午後 3 時 40 分に閉会宣言した］